

文化ボランティアコーディネーターの 必要性和担うべき役割

～2020年東京五輪とそのレガシー(継承)を見据えて、
市民参加によるアートのあるまちづくりを目指すために～
柴田英杞

国の文化政策の動向

- ◆2001年 **文化芸術振興基本法制定**
- ◆2002年～2011年 文化芸術の振興に関する基本的な方針(第一次基本方針～第三次基本方針)が順次策定
- ◆2015年
 - ・文化芸術の振興に関する基本的な方針(**第四次基本方針**)を策定
 - ・**一億総活躍社会**の実現に向けた文部科学省緊急対策プランを発表。
- ◆2016年
 - ・**文化GDP**の拡大～文化芸術を活用した経済活性化～
 - ・文化芸術立国に向けた文化政策(緊急提言)答申案

文化政策における文化ボランティアの位置づけ

- ◆2002年 第一次基本方針において、「文化ボランティア」の文言が明記される
- ◆2003年 文化庁官房政策課に、「文化ボランティア専門官」が配置される
- ◆2006年～2008年 文化ボランティア全国フォーラムを開催(埼玉・東京・弘前)
- ◆2011年 第三次基本方針において、「新しい公共」の取組の中に包含される
- ◆2015年 第四次基本方針第3文化芸術振興に関する基本的施策2地域における文化芸術振興において、文化ボランティア活動を促進し、地域の多様な文化芸術活動の担い手の育成を図ることが明記される
- ◆2016年 文化政策部会ワーキング「新しい文化行政在り方検討会」の答申案において、社会貢献活動としての文化ボランティアへの期待が明記される

文化芸術の三つの価値～文化GDPが求めるもの～

◆文化芸術の本来的価値「人間が人間らしく生きる糧」

生きる力を育む 感性を養う 創造力・想像力を育む 生きる喜びにつながる
シビックプライド(地域への誇りと愛着)の醸成

◆文化芸術の包摂的価値「共生社会・地域社会の絆の強化」

社会的・精神的孤立から人間を守り、あらゆる人々に社会参加の機会を提供する

◆文化芸術の便益的価値「経済活動への貢献・科学技術との融合・世界平和」

文化芸術を手段として、地域イメージの向上、地域再生、定住人口の増加等、主に経済的な付加価値を生み出し、地域を活性化する

市民参加のはしご ～米国・社会学者アーンスタインによる調査(抜粋)～

参加形式	順位	活動内容の段階	英語表記	概要
市民によるコントロール	①	行政独立市民活動	Citizen Control	市民自らが「公・パブリック」を担う
	②	行政から市民団体への権限委譲	Delegated Power	行政の意思決定過程にかかわるだけでなく、決定に伴う管理・運営権限をも地域社会・市民に委譲するもの
実質的な参加	③	パートナーシップ	Partnership	共に考え、共に汗を流し、共に負担やリスクを負うもの。いわゆる「共働・協働」
	④	積極的意見聴取	partnership	市民との対話により意思決定がなされる
形式的な参加	⑤	行政主導推進	Placation	行政主導型の審議会、懇談会、協議会など
	⑥	表面的な意見聴取	Consultation	多くの人から意見は聞くものの、行政の意思決定において、それらの意見に拘束がない
	⑦	一方的な情報提供	Information	情報は伝えるものの、一方的な連絡に過ぎないもの

我が国における文化ボランティアの活性状況

- ◆2002年4月 第16代文化庁長官河合隼雄氏による文化ボランティアの提唱により、全国の文化ボランティアが顕在化し、活動が活発になった。
- ◆文化ボランティア活動を行うことで、地域コミュニティの再生や人間性の回復を目指した。
- ◆文化庁は、「文化ボランティア推進モデル事業」をスターさせ、2008年からは2年間に渡り、文化ボランティアコーディネーター人材を目的に、「文化ボランティア支援拠点形成事業」を実施した。
- ◆2011年10月の社会教育調査によると、社会教育関係施設におけるボランティア登録者総数は、552.237人で、前回調査よりも約5万4千人減少していることがわかった。
また、図書館・博物館・生涯学習センター等は、増加に転じたが、公民館・社会体育系施設、文化会館は、減少した。女性割合は、63.9%として依然として高い。

文化ボランティアとは？

◆そもそも、「ボランティア(Volunteer)」とは？

- ・語源は、自由意志という意味のラテン語「Voluntas(ウォルンタース)」。「自発的にする」「進んで事にあたる」さらには「喜んでする」という「volo(ウォロ)」の意味もあり。
- ・本人の**自発的で自由意思**に基づき、**自らの価値観で独自の行動**を選択できる**無償の労働行為**である。

◆それでは、「文化ボランティア」とは？

文化芸術活動を通じて、**独自の発想や創造力**を提供し、**自発的に参加し、自己実現**を図り、地域文化の推進と発展に寄与する**社会貢献的活動**である。

◆名称さまざま、多様で広範囲な活動

- ・文化ボランティア、サポーター、シアターボランティア、アートマネジャーなど
- ・会場案内、受付、鑑賞ガイド、広報宣伝、企画提案、舞台技術助手など

文化施設におけるボランティア導入の主な時期

- ◆1950年代中頃 公民館、図書館等で先行的に導入
- ◆1974年 北九州市立美術館が展示解説ボランティアを全国に先駆け一般公募
- ◆1980年 福井県武生市(現越前市)文化センター武生国際音楽祭において、推進役をボランティアコーディネーターが総括した記録が残っている
- ◆1983年 福島県喜多方プラザ文化センター舞台技術スタッフに特化したボランティア養成講座がスタート
- ◆1986年 上野動物園を皮切りに、国立科学博物館が参加体験型展示への助言・指導を目的にボランティア団体を発足
- ◆1987年 北海道開拓の村が展示解説と演示活動を開発し、全国へ波及

文化ボランティアの活動実態

2006年度文化庁委託事業「文化ボランティア活動実態環境調査報告書より

- ◆活動者プロフィール 7割が女性。男性は、60歳以上が約6割。若者は1割強。
- ◆活動内容 美術館・博物館・公共ホール 鑑賞ガイド、受付、会場案内。アートNPOでは企画運営の補助と裏方スタッフ。
- ◆コーディネーション人材の配置 約5割が配置済みで、約3割が兼務
- ◆活動の効果 地域住民の理解や関心が深まった。地域社会との強化が図れた
- ◆活動の問題点 ①活動者の高齢化・長期化・固定化
②新規ボランティアのリクルート
③慢性的な予算不足
- ◆公的機関への期待 財政支援 運営ノウハウの提供 研修・教育・交流の機会

文化ボランティアコーディネーションの課題

2010年度文化庁委託事業文化ボランティアコーディネーター養成に関する調査研究

◆主には、**コーディネーター人材の育成**が急務であることが浮かび上がった。

- ①コーディネーションスキルアップのための専門講座・研修機会の提供
- ③コーディネーター間のネットワーク構築
- ④実践の場の提供とフォローアップ

◆**コーディネーションとは何か?**というそもそも論。

コーディネーションの捉え方や定義が不明確である。

◆**ボランティア・マネジメント**習得の必要性

ミッションを共有して、参加者全員で共感を覚え、共に活動し、共に創る。リクルートプロセスに始まり、共働プロセスを通じて、振り返りを行う一連の流れ。

ボランティアコーディネーションとは何か？

参考文献・日本ボランティアコーディネーター協会テキスト

◆活動ミッションの重要性～皆さんは、どのような社会を目指したいと思いますか？～

「**自分らしい生き方**が尊重される社会」

「**自分の力**を活かせる社会」

「**弱さを分かち合える**社会」

「一人一人が役割を持ち**対等な関係**を構築できる社会」

「**社会課題の解決**に取り組む社会」

「**市民参画**社会」

「**プロセス重視**の社会」

「**豊かな人間関係**を創り出す社会」

「自然環境を守り、命を受け継ぐ**持続可能**な社会」

ボランティアコーディネーションの構成要素

◆コーディネーションの7つの機能

- ①対等な関係を創り出す ②総合力や課題解決力を生み出す ③人と人とのつながりを生み出す
- ④モノやサービスを生み出す ⑤活動への参加や参画を促進する ⑥活動する人や部署の役割を調整する
- ⑦異なる活動の協働を実現可能にする

◆ボランティアコーディネーションを担う人の8つ役割

「受け止める」「求める」「集める」「つなぐ」「高める」「創り出す」「まとめる」「発信する」

◆実務レベル

- ①マッチング 人と活動をつなぐ力が要求される
- ②実践 活動現場でのボランティア・マネジメントが求められる

◆専門性とスキル

分野ごとの専門的な知識に加えて、コミュニケーション、評価、組織戦略、広報、プログラム開発、人材マネジメント、進行管理などのスキルが求められる

ボランティアマネジメントの重要性

◆ボランティアマネジメントとは？

「ボランティア自身が持つ個性を尊重しつつ、個人の潜在力を最大限引き出すと共に、組織のミッションを達成することができるよう、ボランティアという人的資源をマネジメントすること」

◆ボランティアマネジメントのプロセス

受け入れ組織のミッションの明確化⇒共働方針の策定⇒スタッフ間での合意形成

⇒ボランティアのニーズ調査⇒プログラムの立案⇒活動内容の確定⇒ボランティア募集

⇒募集受付・面接⇒選考・配置⇒オリエンテーション・研修

⇒ボランティアとの合意形成(事業目的やミッションの確認)⇒活動開始

⇒研修と動機付け(モチベーションの維持)⇒自己評価・全員での振り返り⇒謝辞

⇒ボランティアプログラムの改善⇒翌年度のボランティア活動へ

アートのあるまちづくりを進めるためには

◆多種多様なつながりで、地域を元気に!

パートナーシップの重要性

つなぎ手となるコーディネーター人材の育成が必要

◆文化のすそ野を広げる!

より多くの市民が文化活動に関わる環境をつくり、支援する

文化ボランティアを通じた社会貢献活動で地域に活力が生まれる

◆受け入れ側の準備体制は整っていますか?

環境整備、文化ボランティアを推進する共通認識、

ボランティア・マネジメントの習得と実践

◆文化ボランティアの専門性を高めよう!

継続性(自発性⇨揮発性)、生涯現役の学び、ルールづくりとチームワーク
の重要性